

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

(別添1)

令和8年1月26日

協議会名: 姫路市地域公共交通会議離島航路分科会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
坊勢輝汽船株式会社	坊勢～姫路航路 航路距離 22.1km	<p>【前回の二次評価結果】 地域関係者と連携した島の魅力の磨き上げや情報発信を強化するとともに、導入したキャッシュレス決済の利便性向上にも努め、誘客による運航収益の増加を図りたい。 また、適切な船舶の運航を図ることで経費を削減しつつ、利用者が安心して利用できる公共交通機関として、引き続き安定的な航路の確保維持に努められることを期待する。</p> <p>【反映状況】 ・燃料費が高騰する中、中型船の運航を荒天時や繁忙期に限定し、最小限の運航とすることで経費削減に努めた。 ・旅客船の乗船券とバスの乗車券をセットにした企画切符の販売や、姫路市地域おこし協力隊による島の魅力の発信、姫路観光ガイドブックへの広告掲載や家島諸島で開催される花火大会やペーロン大会への新聞広告の協賛を行い、交流人口の拡大に向けた取り組みを図った。また、SNS等を活用した運航情報等の発信や、一部乗船券にキャッシュレス決済を導入しているなど利用者サービスの向上にも引き続き取り組んだ。さらに、コミュニティバスと定期船の発着時間を連携させ、交通結節機能を強化し、島内交通との利便性向上も図った。</p>	<p>令和7年度の運航回数は8,670回。欠航を悪天候による80回に留めるとともに、運航基準に基づく、安全管理規程等を遵守した安全運航に努めた結果、適切な運航ができた。</p> <p>A また、現行の利用状況を踏まえつつ、本土からの工事関係者の利用需要を見据えたダイヤに変更するなど、利用者の利便性を高めたほか、収益の確保を図る運航に努めた。</p>	<p>令和7年度の計画の目標を「旅客輸送量」とし、過去3か年の平均値である217,085人としていた。</p> <p>令和7年度の年間旅客輸送量は216,927.5人で、計画とほぼ同数(157.5人減)であり、対前年度(213,860人)比では約1.4%(3,067.5人)増となった。島民人口が減少している中、輸送量増加の要因として、坊勢小学校改修工事に従事する工事関係者の利用を見据え、ダイヤ改正を実施したことで、継続的な通勤利用者を確保できたことが大きい。</p> <p>企画切符の販売のほか、Instagramやメールによる前広な運航状況の配信、定期船との接続を考慮したコミュニティバスのダイヤ改正などにより利便性が確保できた。また、来訪者の増加に向けた取り組みとして、地域おこし協力隊によるSNS発信や関係機関と連携したパンフレット作成などを行い、島の魅力を積極的に発信した。これらの結果、定年後の移住者の獲得に成功するなど島の振興にも寄与し、交流人口を増加させた。</p> <p>収支面では、令和4年10月に運賃値上げを実施した際の回数券のまとめ買いにより、令和4年度の増収とそれに続く大幅な減収が続いていたものの、令和7年度の数回券収入は令和3年度と同収入を上回るまで回復し、運賃値上げによる経営の安定化の効果も出始めている。</p> <p>また、燃料費が高騰する中、中型船の運航を荒天時や繁忙期に限定し、最小限の運航とすることで経費削減ができた。さらに、使用船舶3隻について長期利用を見据え、リースによる運航から自社保有船とし、中長期的な経費削減を図っている。</p> <p>経営安定化を図ることで、慢性的な船員不足の解消や陸員の確保にも対応でき、安定した航路運営に寄与した。</p>	<p>引き続き中型船の運航を荒天時や繁忙期に限定して小型船を中心とした運航とし、小型船のいずれでも男鹿島への寄港ができるようにするなど、運航需要に応じた適切な船舶の活用を図り、経費節減に努める。</p> <p>船員を1名増員し、船員12名体制で安全で安定的な運航を継続できる環境を整える。</p> <p>今後も島民人口の減少による影響が見込まれるが、家島本島や姫路市中心部との周遊企画、関係機関と連携しSNSによる発信やパンフレットを作成するなど、島の魅力を積極的にPRし来訪者の増加に向け取り組むほか、Instagramやメールにより運航状況を前広に配信するなど、さらなる利便性向上に努めていく。</p>

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月26日

協議会名:	姫路市地域公共交通会議離島航路分科会
評価対象事業名:	離島航路運営費等補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>姫路港坊勢島航路は、離島住民にとって島外への通学や通勤、通院、買物等の生活需要の確保のために利用しており、坊勢島と姫路港を結ぶ唯一の公共交通手段であることから、なくてはならない生活の足となっている。</p> <p>利用者は、令和6年度に比べ増加しているが、島民の人口は、10年間で約25%減少するなど全国の離島同様に人口減少が著しく、依然として離島航路事業者が単独で航路を維持していくことは困難な状況であることから、今後も引き続き離島航路の維持には公的支援が必要な状況にある。</p> <p>当該離島航路の利用者は、島民の人口減少により、今後大幅な増加は見込めないが、家島本島や姫路市中心部との周遊企画、関係機関と連携しSNSによる発信やパンフレットを作成するなど、島の魅力を積極的にPRし、来訪者の増加に向けた取り組みを継続し、交流人口の増加を図る。</p> <p>また、荒天時の安全運航など安心して利用できるような環境整備に努めるとともに、利用者の利便性向上や利用促進の取り組みにより航路利用者の確保を図りつつ、適切に経費の削減を行い中長期的に健全な経営に取り組み、持続可能な地域公共交通を目指す。</p>